

「霊と心において新しくされ続け」

エペソ人への手紙 4 : 22 - 24

May.26.2024

エペソ人への手紙 4 : 22 - 24 (パウロ)

Preface

奇しくも、先週のペンテコステ礼拝の継続のような聖書箇所となりました。今一度神様は、私たちに足りていないのは、「聖霊によるバプテスマだ」と、「聖霊の満たしだ」と、「聖霊により新しくされ続けることだ」と語り掛けて、下さっているように思わずにはられません。

「主イエス様は我が救い主だ」と告白した時の自分の身に起こった過去の信仰体験に安住するのではなく、今現在も生きて働かれる聖霊なる神様の毎日の刷新を求め、探し、たたき、古い人に留まり続けようとする以前の生活習慣を脱ぎ捨てることを諦めることなく、日々主にある新しい人を着続けることの重大さを教えてくれます。

Part One

先週お話ししましたように、私たち人間という存在にとって最も大事なものは、神のいのちの息、神の霊、聖霊です。

創世記 2 : 7 にありますように、三位一体なる神様が人を創造された時、ご自身の霊によって人を創造されました。

神の霊が人のうちにあるということは、神のいのちがその人のうちにあるということであり、神の知恵が、神の分別が、神の価値観が人のうちにあるということでした。

そのため人は本来、神の目を通して物事を見、神の耳を通して聞き、神が触るように触り、神が話すように話し、神が考えるように考えながら生きることの出来る信じられないくらい特別で尊い素晴らしい存在でした。

しかし、親が小さな子供が健康に生き成長していくことを第一に思って、生まれて来てから先ず最初に親と子の間で交わされる約束、最も基本的な親と子の約束、「食べてはいけないものを食べてはいけませんよ」と諭すかのように、最初の人アダムとエバに神様は、「善悪の知識の木から食べてはなりません。それを食べたならあなたがたは必ず死んでしまいます」と教えて下さいましたが、人は神とのその尊い約束、人が生きる上で最も基本的な、食べてはならないものを口にしないという当然の決まり事を破る根本的な罪を犯してしまったことによって、人の存在において最も大事な神の霊を、神のいのちの息を、聖霊をその内から消し去ってしまいました。

第一テサロニケ 5 : 19 の「御霊を消してはいけません」という言葉に反して、約束を破るという罪をもってその内から御霊を消し去ってしまいました。

すると、神が見るようには見られなくなり、聞くように聞けなくなり、触るように触れなくなり、話すように話せなくなり、神が考えるように考えられなくなってしまうました。

神の知恵、神の分別、神の価値観、そして神への愛が、その内から消えてしまい、内なる霊に混乱を来たしてしまっただけです。

すると、人はどうなったか？

神の霊ではない他の霊、他の考え、他の言葉、他の世界観や価値観に支配され、そのままでは、その罪ゆえに死んで滅びてしまう者となってしまいました。

霊の渇きを潤さないものや食料にもならないもののために金を払い、霊の腹を満たさないもののために労する掴みどころのない風を追うような生き方をし、やがて永遠の滅びへと至る存在となってしまいました。

伝道者の書でソロモンが言うように、「空しい、空しい、ああ空しい。太陽の下でどんなに労苦しても、それが人に何の益になるだろうか」と、吐露するようなその空しいものを追いかけてながら、死ぬために生きるような者となってしまいました。

その姿はあかたも、砂漠で蜃気楼を追いかけてながら生きながらえている人のように見えます。

オアシスだと思って行ってみると、そこには水が一切ありません。

疲れ果て、多くの人がそこで息絶えてしまいます。

エペソ人への手紙4：17－19（パウロ）

神との約束を破り、善悪の知識の木からその実を食べてしまったせいで、神の霊を失い、私たち人間は霊的間抜け・無知な者となってしまいました。

神のいのちから遠く離れた者となってしまったわけです。

Part Two

ところが、「人は、水と聖霊によって新しく生まれなければ、神の国を見ることも入ることも出来ません」とイエス様が新たに約束をして下さりながら、2000年前のペンテコステの日に弟子たちに、今一度新たに聖霊をお与え下さいました。

聖霊によるバプテスマを、聖霊の満たしを、聖霊によって新しく生まれるという御言葉の成就を体験した弟子たちは、全くもって別の人となりました。

善悪の知識の実をもって失われてしまった神のいのちの息を回復し、神の霊を回復させて頂いたわけです。

この世に生きるけれども、この世とは違う価値観、世界観、視野、ピント、考え、思想、理念、哲学で生きる天に国籍があることを確信し、天に国籍がある天国市民として、この世を生きることに何の躊躇もない者へと生まれ変わり

ました。

世界には196カ国があるそうですが、一人の人がどこの国で生まれ、どの国の文化に生き、染まり、影響を受けるのかというのは、その一人の人の価値観を形成する上で、大きなことから小さなことへの判断基準に至るまで、恐ろしい程にとてつもなく大きな影響力を持っていると思います。

例えば私は、日本で生まれ、日本の学校に通い、日本の文化に触れ、日本人の友達と過ごしながら、韓国人の両親の元育ちました。

そういう中で、大なり小なり文化の違いを経験してきました。

ほんの小さなことかもしれませんが、例えば食事をする際、学校では、「器をもって食べなければ犬食いだ」と習いましたが、家では、「器をもって食べるのは礼儀に反するから置いて食べなさい」と習いました。

イエス様を知ってしまうと、そんなこと別にどっちだって構いません。

もちろん、人の躓きにならないために、時と場合によって合わせはしますが、器をもって食べようが、器を置いて食べようが、その人が何たるかを決めるのは、その人のうちに神いのちの息・神の霊があるのかどうかによるのであって、人が決めた文化や風習によって、その人の価値が決まることは一切ありません。

にもかかわらず私たちは、どっちだって構わないような小さなことを、あたかもその人の価値や評価を左右するような大きなものと考えるようにまで、国の文化に生き、染まり、誇り、影響を受けます。

しかしながら、そこには、いのちはありません。

人のいのちを左右するのは、どの国の文化を習得し、馴染み、誇り、自分のものにするのかに掛かっているのではなく、神の国の文化に染まっているのか、染まろうとしているのか、染まり続けているのかに掛かっています。

かつてイエス様の弟子たちは、イスラエルという国を誇り、イスラエル民族であることが何にも増して自分たちのプライドであり、イスラエルという文化が善であり、その文化が広がることこそが正しいんだと普通に思い、イスラエルという世の国のことを誇らしく思う者でありましたが、聖霊によるバプテスマを受け、聖霊に満たされると、価値観が世界観が変わりました。

神の見方、神の考え方、神の話し方が、その内で芽生え始めるんです。

世への欲が欲でなくなり、欲が無くなったため争いが止み、妬みや恨みや不安や恐れが影を潜めるようになりました。

その代わりそこには、神の国の平安が、神の国の平和が、愛が、天の御国が、その人生の現場に臨むようになりました。

使徒の働き2章に書いてある通りですね。

Part Three

「イエス・キリストを我が救い主だ」と告白しクリスチャンとなった人は、「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』ということは出来ませ

ん」(第一コリント12:3)と使徒パウロが言うように、聖霊の導きによってクリスチャンとなりました。

それなのに、イエスを信じているはずのエペソ教会の人々や私たちに、使徒パウロは今日の聖書箇所をもって、「古い人、以前の生活を追う、渇きや腹を満たさないものために金を払い、神のいのちから遠く離れていたその霊的幼稚な掴みどころのない風を追うような身に染みついた習慣を脱ぎ捨てるが出来ず、むしろその習慣を追うような、好んでいるような以前の生活様式に従って生きようと、生きているのではないのでしょうか？」と問うてきます。

確かに、生まれながら身に備わっているデオキシリボ核酸DNAに刻まれた本能的な罪、無意識の内に深く根付いている後から付け加わった価値観や文化風習、以前の生活様式に従って、なおも自分が神になろうと、自分の言葉にすがろうと、イエス様よりも大事なものがある善悪の知識の木の実を食べ続けるかのような霊的幼稚さをもって、空しく蜃気楼を追うような古い人が、私たちに残っています。

それをかち割ること、脱ぎ捨てることは、そんな簡単なことではないでしょう。

世の中に生きていながら世に従って生きないということが、どれだけ難しいことか！

怖いですし、不安ですし、心配です。

でも私たち、そのチャレンジを止めるわけにはいきません。

エペソ人への手紙4：22-24 (パウロ)

古い人を脱ぎ捨て、新しくされ続け、真理であられるイエス・キリストにあって、新しい人を着ること。

イスラエルの2代目王であったダビデは、父親や兄弟からも、その存在を忘れ去られてしまう程に何も持たない小さき者でした。

でも神さまは、世の誰もが評価しないダビデという一人の少年の神への賛美、神への信頼、神への信仰を微笑ましく思いながら、しっかりと見ておられ、時に適ってダビデに油を注ぎ、イスラエルの2代目王として立てることを宣言なさいました。

ダビデが、預言者サムエルによって油を注ぎかけられながら次の王となることを宣言された時の聖書箇所を見ますと、「主の霊がダビデの上に激しく下った」(第一サムエル16:13)と書いてある通り、ダビデに聖霊が激しく下って下さいました。

そして、ダビデは信仰に生きます。

どれほどに信仰に生きるかと言いますと、後世に渡ってダビデの子孫たちが、神の目に悪を行う度に、「あなたの父ちゃん、あなたの爺ちゃん、あなたの曾

爺ちゃん、あなたの曾曾爺ちゃん、あなたの曾曾曾爺ちゃんのダビデに免じて、あなたのことを大目に見て上げよう」と神さまが宣言なさる程に、ダビデは信仰に生きました。

「じゃあ、そんなダビデは完璧な信仰者だったのか！」と言いますと、そんなことは全くありませんでした。

過去に一度、とてつもなく激しく主の霊が下ったことのあるクリスチャンでありますが、その過去の聖霊体験が信仰体験が、ダビデを守り、ダビデを導き、ダビデを立派な信仰者とする道具やお守りにはなりませんでした。

先代王サウルにだって主の霊が激しく下って下さったことがあり、「サウルは預言者でもあるのか？」と人々に驚かれる程の信仰体験をしましたが、その一度の信仰聖霊体験が、彼を神の目に適う信仰者たらしめることはありませんでした。

むしろ、不信仰を生きてしまった者として、聖書はサウルを記録しています。

では、何が必要で、どのように神さまは導いて行かれるのか？

自らの限界を知る、認めるということが大事になってきます。

古い人、以前の生活習慣に従って生きることを脱ぎ捨てることはチャレンジしていかなければならないけれども、自分の力では到底出来ないということを認め、挫折し、悔いる体験を素直に通らなければなりません。

ダビデとサウロの最も大きな違いは、二人ともに失敗し、挫折を経験しますが、ダビデは、それを神の前に素直に認め、今一度、霊の刷新を祈り求めました。

しかし、サウルは認めることを拒絶し、悔いることを素直に行いませんでした。

詩篇 51 篇に行ってみましょう。

ダビデが忠臣ウリヤを殺し、その妻バテシェバとの姦淫の罪を正当化し、隠蔽しようとしたことを預言者ナタンに告げられた時に告白した告白、祈りです。

詩篇 51 : 4-5、10-12、16-17 (パワポ)

「神よ、私は今、あなたの前に悪を行う罪人であるばかりか、母が私を身ごもったもうその時から罪人であり、古い人を脱ぎ捨てることも出来ずに、古い習慣に生きることに心地よさまで感じてしまう、生まれながらの罪人です。

私の力では、どうにもこうにもなりません。

どうか哀れん下さい。

慈しんで下さい。

こんな私の霊を新しく刷新し続けて下さい。

一度お与え下さった聖霊を取り去らないで下さい。

あなたの御言葉の前に、私の心を砕き、私の間違った霊を素直に認めますか

ら、主よ、どうか私の霊を新しく造り変え、あなたの霊によって満たして下さい」と、ダビデは祈りました。

神さまは、過去の信仰体験にあぐらをかいているような傲慢を見過ごされるようなことはなさいません。

荒野で、毎日毎日天から降ってくる主の恵み・マナを40年間食べ続けながら生きたイスラエルの民たちのように、毎日、昼も夜も、神の霊である聖書の言葉を食べ続けながら、神の霊による刷新を求めようとしないその高慢から遜りへと、自らの過ちを認め、心を砕き、魂を砕く場へと導いて行かれます。

導こうとされます。

その時、私たちに求められる愛なる選択は、その神の砕きを素直に認め、受け入れることです。

そして、気付かせて下さいます。

「あなたに今必要なのは、御言葉とともにある霊の刷新と、聖霊の満たしです」ということを悟らせて下さいます。

Part Four

聖歌462番、説教の後に歌いますが、その1節の歌詞です。

我が生涯は改まりぬ。イエスを信ぜしより。我が旅路の御光なるイエスを信ぜしより。

イエスを信ぜしより、イエスを信ぜしより、喜びにて胸は溢る。

イエスを信ぜしより。(パワポ)

「イエス様を信じたその時から、私の人生が改まり新しくなりました。イエス様を信じたその時から人生が変わり、生き方が変わり、喜びが胸に溢れるようになりました」と賛美します。

英語の原文の歌詞ですと、「主イエスが私の心に来て下さってから、私の人生は素晴らしく変わった。イエス様が私の心に臨まれると、海の大波が打ち寄せるかのように喜びが溢れるようになった」となっております。

キリストが、キリストの霊が、主の霊が私の内に来て下されば、霊の喜びに満ちあふれると賛美します。

蜃気楼を追う人生には、こんな喜びはないことでしょう。

残念ながら、いのちありません。

それはあたかも海水を飲むかのように、飲んでも飲んでも渴きます。

渴きを潤してくれるどころか、飲めば飲むほどに渴きます。

海水と言いますと、思い出す思い出が一つあります。

皆さんの中に、海水で頭や体を洗ったことがある方いらっしゃるでしょうか？

もう大分前の話になりますが、20年程前にマレーシアのボルネオ島に行った時のことです。

小さな小島にログハウスが並ぶホテルに泊まったのですが、周りはきれいな海に囲まれ、潜ればサンゴ礁の上のリアルニモ・クマノミなどの熱帯魚がいるそれはそれは素敵なところでした。

ただ一つ問題がありました。

それは、その宿泊するログハウスには真水が出ないということです。

蛇口を捻っても、シャワーを捻っても、海から直接吸い上げた海水しか出て来ないんです。

仕方なく、海水のシャワーで、石鹸やシャンプーで頭や体を洗うのですが、どんなに洗っても、ベトベトしていて、全然さっぱりもせず、疲れも取れず、なんか気持ち悪いまま寝なければなりませんでした。

そうして2泊ぐらいしてから、首都クアラルンプールのホテルに行って、真っ先に真水のシャワーを浴びた時のあの爽快感と疲れの取れる感じと言ったら、20年近く経った今でも忘れられないぐらいの生き返るような気持ち良さでした。

そして、真水いっぱいプールに飛び込んだ時の清々しさと言ったらもうたまらないですね。

蜃気楼を追う人生における真水を装った塩水は、飲んでも飲んでも霊的渇きを潤すどころかもっと渇き、そのしょっぱさで胸はむかつき、洗っても洗っても纏わりつくかのようにベトベトして疲れも取れないから、不平が出ます。

不平が出るから、争います。

罪を犯します。

妬み、恨み、傷つけ合い、殺し、殺される戦争が止むことのない霊的混乱が蔓延します。

武力戦争がなければ、経済戦争、貿易戦争、サイバー戦争、受験戦争、情報戦等々、ありとあらゆる代理戦争が繰り返され、戦いや競争に満ち溢れた地獄のような世の中にしてしまいます。

家庭も、学校も、職場も、世の中も、そして教会でさえも、そのような事になってしまい兼ねない霊的幼稚さを露わにした、以前の生活に染まった古い人が私たちの中に残っています。

だから、エペソ書4：23

エペソ書4：23 (パウロ)

ることが、求められるのです。

Part Five

私たちには聖書の言葉がありますが、私たちは聖書の言葉を食す者であるで

しょうか？

聖書の言葉に渴望を抱く者であるでしょうか？

先週も見ましたように、神の言葉・イエス様の言葉は霊です。

神の言葉である聖書の御言葉で満たすことは、御霊を消すことの反対であり、聖なる御霊が取り去られることの逆であり、揺るがない霊が私のうちで新しくされることです。

ヨハネの福音書6：63（パウロ）

ペテロの手紙第二1：21（パウロ）

聖書の御言葉を読んで与えられる感動、潤い、甘さ、美味しさ、苦さ、霊的お腹の満たされ具合は、聖霊によるものです。

そして、その聖霊による感動、潤い、甘さ、美味しさ、苦さ、栄養分が、私たちの価値観・世界観を変えます。

体質を変えます。

霊的体質を変えます。

私たちの人生を変えます。

生き方を変えます。

もちろん、変えられたことをもって世の中生きて行くことは、そんな簡単なことではないでしょう。

なおも恐いですし、不安ですし、世には通じないように感じますし、死にそんな思いもするでしょうし、滅びてしまうんじゃないかと、失敗に終わるんじゃないかと思ってしまうこともあるでしょう。

世の価値観・生活様式に従って生きれば勝利出来るように思えますし、上手く行くようにも思えますし、幸せに生きられるような錯覚が私たちにもありますが、三位一体なる神様を信じる信仰によって死ぬ時は死ぬ、生きる時は生きる。

神さまの教えとさだめにこだわり続けながら生きるならば、聖歌462番の歌詞のように、「イエス様が私の心に臨まれると、大波が打ち寄せるかのように喜び溢れる」という歌が、告白が、私たちの人生の証しとなること請け合いです。

聖書に記されている神の言葉は、私たちに対してただ一言も、「そのままでもいい。そのまま十分だよ」なんていう浅はかで、楽観的な慰めを装ったような言葉をかけてはおりません。

もちろん、私たち一人一人の存在の尊さは一貫して宣言し続けてくれますが、愛ゆえに、薄っぺらな言葉を掛けるようなことは一切致しません。

正確に言いますと、「わたしはあなたをなおも愛しています。だから今のままでいいなんてことは1mmも思っていない。その神の霊がない状態から、神の霊がもう一度住まう本来あるべき姿の人に戻すために、わたしはイエス・

キリストをもってこの地に来ました。そしてあなたがたの信仰は、一度主イエスを信じてはい終わりではなく、霊において新しくされ続けることを諦めることなく、主イエスに留まり、主イエスの言葉を保ち、守り、愛しなさい。それが、あなたを霊において新しくし続けます。わたしを愛さない人は、わたしの言葉を守りません」と、教え諭して下さいます。

Conclusion

そして使徒パウロ先生も、今日のエペソ書の御言葉を通して、「以前の生活習慣に従って行こうとする古い人を脱ぎ捨てなさい。神のいのちから遠く離れたような生き方をもうこれ以上生きることを辞めませんか。神にかたどり造られた新しい人を着なさい。キリスト・イエスを着なさい。霊において新しくされ続けることを求めなさい」と語ります。

そのために私たちに必要なのが、神の霊そのものである神の言葉であり、神の言葉に基づく祈りであり、聖霊の満たしを求めることですよね。

私たちに今必要なのは、なおも、聖霊による刷新であります。

聖霊を求めることです。

聖書の御言葉を日々信じ、食すことです。

そうして聖霊の満たし刷新が与えられた時、人生の現場に臨む神の国を喜んでいる私たちの姿を見た一人でも多くの人々が、神の元へと帰ってこられることを願って止みません。

霊と心において新しくされ続けることを通して、私たちが生活するすべての領域に、神の国の素晴らしさが満ち溢れることをお祈りいたします。

お祈りいたします。

祝祷：エペソ4：22-24